

中 岳



熊本市歯科医師会代議員会
九州八市歯科医師会役員連絡協議会



目

次

巻頭言	1
熊本市歯科医師会代議員会	2
大島慶久熊本県後援会総決起大会	4
九州八市歯科医師会役員連絡協議会	5
医専連シンポジウム	6
救急蘇生法講習会	9
学術講演会	10
スタッフレベルアップ講習会	12
委員会だより	13
学術委員会、公衆衛生委員会、学校歯科委員会	
委員会紹介	16
医療管理委員会	
Study	大川 智 弘 18
スタディグループ紹介	21
移動理事会	22
私の趣味	伊 東 泰 蔵 23
大切なもの	丸 山 毅 24
思い出の旅	牛 島 隆 25
新入会員紹介	27
スポーツの広場	28
会務報告	29
協同組合だより	31
編集後記	

表紙の写真

クリスマス・リース(慈愛園にて)

価値観の变革を!!



副会長 菅原 洋

4月より関新執行部がスタートし、会員の皆様方のご理解とご支援をいただき会務も、事業も順調に遂行されております。これもひとえに会員お一人、お一人のお力添のたまものと感謝申し上げます。さて、流動的な政治経済情勢の中での六大改革、金融システム構造改革の中での銀行、証券会社の大醜態、なかでも四大証券の一角山一証券の信用不安からの自主廃業！医療界においても9月からの社保本人2割負担導入に端を発した先の見えない、医療制度改革の真只中、本会においても、価値観の改革をもって21世紀への展望を見出ししたいと思います。その1つは、従来からの削る、詰める、抜く、そして義歯という概念からの脱皮であり、すなわち予防中心の咬合の確立、咬合の維持、歯周病、そして8020運動であり、咬合咀嚼を通して、身体の機能の改善にかかわる歯科診療体系の価値観の变革である。

2つ目は、社団法人としての歯科医師会の組織構造の見直し、すなわち会員のニーズにあった運営、福利厚生の実、会計機構の見直し、会費の値下げ及び非会員の減少につながり組織強化の一端をにう。

その事が対外的信頼と、会としての使命感を保つことができる。

3つ目は、会員（歯科医師）としての価値観の变革、国民に良質の歯科医療を提供し、かつ経営の安定をはかる為には、会員自らが国民の歯科医療を守るという意識と行動が必要であり、会員相互の和が結集してこそ歯科の出来高払いが死守でき、予防と補綴の技術料が平等という21世紀の展望がみえ出されるし、最小限の義務として、我々の代表を国会に送ることが国民の医療福祉を守る原点になると思います。

今後とも、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げますとともに、この難局を会と会員の発想の転換でのりきろうではありませんか。

定款・会計機構の見直しを主眼として

平成9年度 社団法人熊本市歯科医師会代議員会

平成9年度社団法人熊本市歯科医師会代議員会が9月25日（木）午後7時30分より県歯会館3階ホールにて開催され全議案可決承認されました。



1. 点呼 矢毛石豊常務理事
 2. 開会 矢毛石豊常務理事
 3. 会長挨拶 関 剛一会長
- ＜要旨＞

新執行部になり初めての代議員会です。約6ヶ月経過しましたが会員各位のご協力により順調に会務を執行しております。対外的な面では総務報告の中に出てくるたくさんの協議会或いは推進委員会などがあります。これらは今年度から地域保健法が全国で各郡市においてきたからであり、その中の協議会が非常に多くあります。地域保健法がおりてきたことにより市民の歯科の保健、福祉に対するニーズがより多様化してくるでしょう。しかし本会では従来より対処しているところであります。また本会では今年度主眼としているものに定款の見直しがあります。不備な点が多々あり、諸規則も含めて現在臨時委員会を設け検討中であります。さらにもう一つこちらも臨時委員会を設け会計機構の見直しをはかっております。会計が煩雑である為簡素化をめざし、収入に関してはなるべく一本化したいと思っております。入会金に関しても何らかの形で入会された会員の先生方に還元できるようにしたいと思い検討を重ねております。

4. 議長及び副議長選出
議長 田中 宏先生
副議長 宇治道孝先生
5. 議事録署名人選出
江田雅彦先生
中川順一先生

6. 報 告

- 1) 会務報告 古賀 明専務理事
- 2) 庶務報告 矢毛石 豊常務理事
- 3) 会計現況報告 小田 和人常務理事
- 4) 監査報告 宇都宮啓一監事

7. 議 事

第1号議案

平成8年度熊本市歯科医師会（一般会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第2号議案

平成8年度熊本市歯科医師会（収益事業会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第3号議案

平成8年度熊本市歯科医師会共済会計歳入歳出決算の承認を求むる件

第4号議案

平成8年度熊本市歯科医師会退職積立金会計歳入歳出決算の承認を求むる件

第5号議案

平成8年度熊本市歯科医師会入会金会計決算の承認を求むる件

第6号議案

平成8年度在宅歯科保健推進事業（別途会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第7号議案

平成8年度長寿の里歯科診療所会計（別途会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第8号議案

平成8年度熊本市歯科医師会熊本市職員・家族歯科検診（別途会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第9号議案

平成8年度熊本市歯科医師会年史積立金（別途会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第10号議案

平成8年度入院入所者歯科訪問事業（別途会計）歳入歳出決算の承認を求むる件

第11号議案

平成8年度熊本市歯科医師会基本財産積立金会計決算の承認を求むる件

監査報告 宇都宮 啓一監事

8. 協 議

1. 会計機構の見直しについて

1) 会計業務の整理を行う。現在11の会計があり複雑である。税理士のすすめもあり一本化する。収益事業に関するものは別途会計とし、別途会計にした方が見やすい場合も別途会計。

2) 入会金の細分化、会館管理費や福利厚生費などに振り分けられないものか検討。入会后10年、20年、30年目に功労金として還元できないものか検討。

3) 基本財産の使用目的を考える。現在3億2千万円ほどあるがただプールしているだけでは意味がないのではないかと。

2. 定款見直し

昭和42年に県の定款を参考に作成。県は日歯を参考に作成してある。現状にそぐわない点が多々あるので見直しをすすめている、現在九州管内をはじめ全国から定款をとりよせて検討中。

3. その他

・Q. 一般の講習会と変わらない講習費をとってパソコンセミナーを行ったのはなぜか。

A. 事業計画になかったので本会からは補助金の支出は行わなかった。

・健康保険の一部改正説明会の席上で政治に関するお願いを一番最初に行うのはおかしい。

・Q. 夜間、日曜、祝日診療を行う診療所が増えているが執行部はどう対処しているのか。

A. 独占禁止法がからんでくるので執行部としても苦慮している所である。

9. 閉 会

菅原 洋副会長



大島慶久熊本県後援会 総決起大会

11月6日(木) 午後7時よりニュースカイホテルにて「大島慶久熊本県後援会総決起大会」が開催されました。



今回は大島先生御本人が出席されるということで、熊本市、阿蘇・宇城地区の会員を中心として、技工士会、衛生士会、材料商組合などのご協力も得て、出席者約650名というまれに見る盛大な大会となった。

中山精文連盟常任監事の司会進行のもと、オープニングは甲斐田英俊連盟常任監事の先導により、出席者の万来の拍手の中、大島慶久先生が入場された。

河野敬明先生の開会の辞につづき、鬼塚義行熊本県後援会会長が挨拶に立ち、後援会活動への協力に対する御礼が述べられた。

続いて、高森経義先生より来賓5名の方々の紹介があり、来賓を代表して自民党熊本県連会長沢田一精氏より御挨拶をいただいた。

その後、自民党総裁橋本龍太郎氏の電報が成瀬公洪先生より紹介され、いよいよ主役である大島慶久先生の登場となった。

大島先生は「政府管掌保険だけでも、ここ3年間で1兆100億円以上の赤字が見込まれており、崩壊寸前の保険制度の存続を考えての今回の健康保険一部改正への苦汁の選択や、いつ排除されてもおかしくないと考えられる歯科界の事業

税免除、租税特別措置法の問題、出来高払い制の問題などに必死で取り組むという決意」を熱く語られた。

続いて熊本選挙区より立候補される、浦田勝、木村仁両候補の紹介と挨拶があり、関剛一先生より激励の辞が述べられた。

そして、大島先生の大学の後輩である古賀明先生により決議文の朗読があり、最後に菅原洋副連盟長の音頭により当選を祈念しての力強い万歳三唱を行った。

中野敬輔先生の閉会の辞の後、大島先生が出席者の一人一人を握手で見送られ決起大会は大成功の内に終了した。



(小島博文)

第16回九州八市歯科医師会役員連絡協議会

第16回九州八市歯科医師会役員連絡協議会が10月24日（金）午後4時より鹿児島市の「重富荘」に於いて開催された。



鹿児島市の下田平専務理事の司会により始められ議長に鹿児島市の松井会長、副議長に次期開催地である宮崎市の相馬会長が選出された。

熊本市を含めていくつかの市で執行部の任期交代が行われており、私と同様初めての参加の先生も数名おられたが終始なごやかな雰囲気の中で、各市からの提出議題に関して時間も忘れる程、充実した協議会であった。その背景には各市が抱えている問題が類似している為ではなかったかと推測された。

協議会の中で目を引いた点は、福岡市ではインターネットホームページを平成9年2月24日開局し現在までのアクセス件数が2120件、又開局には10万円程度の費用しかかからなかったとの報告があった。又、大分市でもホームページ作りを計画中である。それから各市の非会員数で、大分市は148名の会員数で2名の非会員数、長崎市は296名の会員数で10名の非会員数、本市は321名で28名の非会員数である。又、福利厚生費に関して、沖縄では2年割賦の200万円の融資事業を行っている。

佐賀では終身会員には弔慰金の2分の1の範囲内で生前給付を行っている。それから訪問在宅診療には各市とも前向きに取り組んでおり、熊本方式の在宅歯科治療がかなり参考になっていると思われた。

最後にこの厳しい経済状況の中、会員の為に、又会員のニーズに如何に答えるべきか一生懸命努力している姿勢は各市とも同様であった。

提出協議題

会名	提出協議題
宮崎市区 東諸郡 歯科医師会	対外PRをどのようにしているか (市民向け講演会・健康講座等)
南部地区 歯科医師会	①人口 ②会員数(会員種別内訳) 非会員数 ③組織図(委員会組織も含めて) ④地域歯科保健に関する事業内容(行政補助の有無とその額)・(歯科衛生士帯同費の有無とその額) ⑤地域歯科保健に関する事業は全員参加方式か登録医制度が委員会の中で実施か ⑥保健行政や教育委員会などとの定例協議会開催がされているか。あればその協議会名称とその構成メンバー
福岡市 歯科医師会	
大分市 歯科医師会	訪問(在宅)歯科診療について会で実施しているか、その実施方法等について内容を (1)実施主体 (2)受付より終了までの流れ (3)訪問歯科医の選出方法 (4)治療範囲 (5)実施上の問題点・留意点
佐賀市 歯科医師会	
長崎市 歯科医師会	各市における会費(平等割会費・保険収入割会費など)とその徴収方法について
熊本市 歯科医師会	1. 医療苦情の対応について 2. 会員の福利厚生費として、共済を除いたもので他にどんなものがありますか
鹿児島市 歯科医師会	新規開業及び、会員の移転開業(県内の他市郡歯会からの移転及び本歯会内の移転)の対応

(専務理事 古賀 明)

医専連シンポジウム

「虫歯は万病のもと」

健康フェスティバルの開催に先立ち、関連行事の医専連シンポジウムが10月4日（土）メルパルク熊本で開催された。



今回は市歯科医師会が担当となり、テーマは「虫歯は万病のもと」8020健康づくりは咬むことから。副会長菅原洋先生を座長に、5人の講師が各々専門の立場からシンポジストとして発言した。栄養士会から村山千賀子先生が「咀嚼と食事」、久留米大学医学部教授亀山忠光先生が「歯と病巣感染並びに咀嚼機能と口腔癌」、市歯科医師会から与儀実彦先生が「戦後虫歯は減少しているのか?」、市歯科医師会から有吉洋先生が「今、歯グキの病気はここまで治る」、市医師会から石原章先生が「噛むことと”ボケ”防止」をテーマに取り上げられた。最後に座長はじめ5人のシンポジストが壇上に並び「8020」は可能か、またどうすればいいかなどについて議論し、会場からの質問に答えた。

各シンポジストの講演抄録



村山千賀子氏

<咀嚼と食事>

私共の健康を支える基本は「たべもの」です。口腔は、たべもの（栄養素など）を体の中に取り入れる最初の器官であり、「咀嚼」かむことは健康のかなめとなります。食べものと口とのかかわりを考えてみますと、局所的

なもの、全身的なものがあります。

正しい咀嚼習慣は、一生の中でも、離乳期、幼児期、学童期における食べものをかむ体験が大きく影響します。「かまない子」「かめない子」にならないためには、食品の硬さ、凝集性、弾力性が高く、付着性の低い食品を考えてとるようにならなければなりません。

う蝕は、歯の質、たべもの、細菌、時間の4つの因子が重なった時に発生するといわれています。たべものでは、砂糖摂取量、糖質のとり方、食事・間食のあり方がかかわりをもちます。

近年、食品のソフト化、インスタント食品、加工食品などの増加により、咀嚼回数が減少しています。咀嚼はもちろんのこと、栄養のバランス（特にカルシウムとリンのバランス）、食品の選び方、調理方法、食べ方などに心がけう蝕を予防し、生涯かんで味わう楽しい毎日を過ごしたいものです。



亀山忠光氏

＜歯と病巣感染並びに咀嚼機能と口腔癌＞

病巣感染とは、口腔では虫歯に继发する慢性病巣がもとで、直接つながりのない離れた場所に別の病気を引き起こすことを言い、「むし歯は万病のもと」とするタイトルからするとともにふさわ

しい内容と考える。

そこで、病巣感染の原因となる慢性病巣、二次的疾患の発症機序、その予防法などにつき話したい。

一方、咀嚼機能を損なう疾患として、虫歯、歯周病が挙げられるが、突然半永久的に咀嚼機能を損なう疾患として口腔の癌がある。すなわち、歯肉癌とか舌癌などの可動粘膜癌の顎骨への進展に伴い、顎骨切除が行われることが、瞬時にして多数の歯牙並びに歯牙を支える顎骨を失うことになり、咀嚼はもとより発音などの基本的な機能を損なう。

そこで、そのような口腔癌の病態と早期発見、早期治療の為に早期病変について症例を供覧したい。



与儀実彦氏

＜戦後むし歯は減少しているのか？＞

平成元年に、成人歯科保健対策検討会が設置され80才で20本以上の歯を保つことを目的とし、8020（ハチマル・ニイマル）運動が提唱され、9年目に入りました。

むし歯有病者率は、永久歯において高い率を示しています。性別では乳歯、永久歯とも男性より女性の方が高くなっています。永久歯（15歳以上）の1人平均むし歯数は、全体では、昭和50年の調査以来増加傾

向を示していますが、低年齢者では減少傾向を示しています。

今回のメインテーマが「むし歯は万病のもと」ですので、むし歯がいかに病巣感染源として様々な影響を全身に与えるかをまとめてみました。

- （1）偏食、食欲不振の助長
- （2）局所リンパ節（主として、顎下、オトガイ下のリンパ節）の腫脹
- （3）頭痛、肩こり
- （4）全身抵抗力の減弱
- （5）菌性病巣感染の原因
- （6）発育障害（子供）
- （7）心理的影響

又、菌性病巣感染によると思われる全身疾患を比較的多いものからあげますと、

- （1）微熱
- （2）ロイマチス性関節炎→心内膜炎
- （3）神経疾患
- （4）腎炎
- （5）肝胆疾患

などがあげられます。以上の疾患は、菌性病巣源と思われる歯を治療し、または、除去することにより治癒、または軽快したものの報告があります。



有吉 洋氏

＜今、歯グキの病気はここまで治る＞

成人の歯を失う原因の半分は、俗に歯槽膿漏症と言われる歯周病であり、主な症状として歯グキの腫れ、歯グキからの出血、歯の動揺、口臭などがあげられます。

歯周病の原因は、食後歯に付着するプラーク（歯垢）で、加工食品の多い最近の食生活の影響で現在成人の95%以上は歯周病にかかっています。

しかし、初期には自覚症状が少なく進行して気づくケースが多く、重症になると短期間に多

くの歯を失ってしまいかねない恐ろしい病気です。

一般的には、歯周病になるとなかなか治らないとあきらめている方が多いようです。

しかし、最近歯周病の治療も家庭療法（ブラークコントロール）との併用により確実に、しかもより美しく治せるようになりました。

今回、このような機会を利用し、市民の皆さんに最新の歯周治療をご紹介したいと考えています。



石原 章氏

＜噛むことと「ボケ」防止＞

従来、成人病といわれてきた中で、直接死因に直結する三大疾病（脳卒中、心筋梗塞、癌）は「生活習慣病」という名称に変身しました。「生活習慣病」と言うのは、日常生活の中で、食事、酒、タ

バコ、不眠、ストレス等々に原因して、重大な疾病が出現するという意味です。これらの病気を予防するポイントは結論から言えば「食事内容のバランスと減塩食」と「良く噛んで食べる事」と「趣味と運動を楽しむ事」であり、私たちのエネルギー源でもあると思います。



今回は、「ボケ防止」と「噛む事」の関連について、話をすすめたいと思います。「ボケ」を予防するには、頭（脳神経系）の機能を高く維持する事が必要です。そのために、「どこでも」、「いつでも」、「誰にでも」出来る事は規則正しく食事するとき、嗅覚（香り）、視覚（色どり）、味覚（味付け）を楽しみながら、良く噛んで食べることです。

食物を噛む筋肉の神経は、大脳神経と頸椎神経に支配されています。だから、ものを良く噛む事は、脳神経系の働きを良くする事につながり「ボケ防止」に効果があると思われています。在宅医療で、高齢者の寝たきりの対象の中で、ADL（日常生活動作）を指標として、歯の調整（入歯等）をした人と放置された人とを比較すれば、はっきりとその効果が現れています。その実例として「寝たきり」の方が歯の調整（入歯等）後、4ヶ月後には、車椅子で外出できるように改善された報告があります。

これから先の健康管理に「食事」と「噛む事」の大切さを改めて再認識し、「ボケ」の仲間入りにならないように自覚症状がなくても元気な時に「減塩とバランスのとれた食事」を良く噛んで、かかりつけのホームドクターとかかりつけの歯科の先生に充分相談して「ボケ防止」に努めましょう。

－良く噛んで、減塩食で、ボケ退治－



いざ！という時のために… 「救急蘇生法講習会」

11月11日（火）、学術委員会と医療管理委員会の合同主催で救急蘇生法講習会が行われました。診療後の遅い時間にもかかわらず、熱心な約80名の参加があり、真剣な表情でマネキン相手に救急処置に取り組んでいました。

昨年度まで年2回開催されていた救急蘇生法講習会は今年度より年1回になりました。

最初に会長の挨拶があり、続いて「歯科診療室における救急処置」（日本歯科大学歯科麻酔学教室監修）というタイトルのビデオを用い講習を行いました。

その内容は、

- ①神経性ショック
- ②過換気症候群
- ③即時型アレルギー
- ④アナフィラキシーショック
- ⑤エピネフリン過敏反応
- ⑥狭心症、心筋梗塞

それぞれの特徴的症状と対応、ならびに使用する薬剤の説明。

- ⑦高血圧患者への注意事項
- ⑧異物の気管内誤飲に対する注意事項

の説明があり、それぞれのケースごとビジュアル的に訴えるものがあり臨場感もあって、大変参考になりました。



ビデオの後は学術の中原委員により救急蘇生法の要点を実習の要領を含めてスライドを用いながら解説を行いました。



続いて実習に移り、5体のマネキンを使って

- ①気道確保
- ②人工呼吸
- ③心臓マッサージ

の練習をデモのあと、各自行いました。しかし、いざやってみると息を吹き込む量や心臓マッサージの手を置く位置、強さなど「一度やってみないとわからない」という声も聞かれ、頭で理解していてもマネキンとはいえ、実際の蘇生法の難しさも体験できたようです。

実習と並行して救急薬品の販売、救急医療器械の展示も行いました。

毎年行っているこの講習会ですが、「万一の時に知っていることは大切」という最初の会長のお言葉通り、いざ！という時のために年1回受講し、身につけておくことが必要と感じました。

（学術 牛島隆）

「21世紀の歯科を探る」今後の歯科医療 削るから予防へ

九州大学歯学部教授（小児歯科）中田稔先生

11月15日（土）午後2時30分から歯科医師会館3階に参加者約50名を集めて表記の講演会が行われた。

中田教授は小児歯科学の先生だが、それ以外の分野においても、興味の広さと知見の深さは敬服に値するもので、日本あるいは世界の歯科保健行政の将来を検討する部門で広く御活躍なさっている。



以下はその講演の要旨である。

文部省は、理科系大学の大学院重点化策を進めている。今後博士号を持つ研究者が増加するが、この流れは歯科教育に関してはまだ認められていない。これは歯科の社会的立場の相対的低下を示すものかもしれない。この意味では歯科は今が胸突き八丁である。

厚生省は日本医師会、日本歯科医師会と共同で「医療経済研究機構」というものを作っており、そこでは今後の歯科保険のあり方も議論されてきている。その実績として、

①近年の義歯関連の点数上昇

②小児の予防関連への特定療養費制度導入などがあげられる。

また現在審議されている事柄として、保険治療と私費治療の整合性をとることがあり、小児の不正咬合に関するものの中で、審美的要素が

主訴のものは保険給付しないが、機能的要素が主訴であるものは保険治療に馴染むのではないかと、されている。

次に、歯科保健をめぐる環境の変化をみる。

まず、人口構造の変化や医療経済の逼迫などは先進国共通の悩みであり、日本もこの例外ではない。科学万能主義への懐疑もおき、cureからcareへのシフトも見られる。

また医療と福祉は統合される方向で政策が組まれはじめており、地方自治体においても衛生局（医療）と民生局（福祉）が統合された（福岡県の事例）。なお統合された局の長には医師ではなれないそうである。

厚生省の年金、医療、福祉への予算の配分比率は、現在5対4対1であるが、将来にはこれを5対3対2へ是正することになっている。単純に言えば、歯科診療所が現状の待ちの医療を続ければ、近い将来に収入が75%まで減少することになる。

社会的評価も同様であり、福祉の分野に歯科界も積極的に関与しなければ、歯科界の繁栄も有り得ないであろう。

地域保健法の改正により、地域住民の健康増進への政策策定は、市町村レベルでの対応になり、自治体ごとに濃淡差が出ている。この分野では、歯科医師が政策策定の初期の段階で絡むことが望まれる。

次に歯科疾患自体の構造の変化をみてみると、う蝕も歯周疾患も軽微化してきており、こういう新しい現象を真先に反映させるのが子供の口の中である。

歯科医師数の過剰対策として、歯学部・歯科大の入学定員が一律2割カットされたが、その後も前述の「医療経済研究機構」において対策は継続して審議され、当時の厚生省の歯科衛生

課長により「宮武レポート」が作成（平成5年）された。それによれば、2020年に歯科医師数はピークとなり需要と供給に最大のギャップが生れる。単純に言えば1万6千人の歯科医師が失業する。しかしレポートでは歯科医師数を削減する必要はない、と結論づけている。その理由は、一人の歯科医が一日16名の患者を診るとして、

①歯科医師の定年制の実現

* 誰が歯科医師の老後の面倒をみるのか

②女子の歯学部学生が増えるので開業する人は増加しない

* 現実には増加している

③大病院には病院歯科が増加する

* 現実には病院歯科は閉鎖の傾向にある

④大学院における雇用が増加する

* 現実には大学でもリストラを実施

の4つであると当時説明された（日本歯科医師会の代表者も列席していた）が、講演会当日聴講した本会会員でそのことを思い出せた人はいない模様であった。当時中田教授は九大歯学部長に代わって「医療経済研究機構」の審議会に出席なさっていたそうだが、日本歯科医師会がその結論を無抵抗に受け入れたので、中田先生が「それで良いのか」と詰め寄ったというエピソードも披露された。

ニューヨーク市立大学の公衆衛生の教授が書いたレポートに「供給が過剰になるとダンピングがおき、結果的に全体のレベルが低下する」という警句があるそうで、例として、以下のような事例を挙げられた。

中田教授が卒業したころ治療に際し、麻酔するのは下手な歯科医師といわれた時代があった。そのことは、患者さんの口からのみでなく、同業者同士の批判としてもなされた。つまり足の引っ張り合いがおきる可能性がある、ということだ。

次に歯科保健医療の現状をみてみると、

①乳歯・幼弱永久歯のう蝕の軽症化と減少

②高齢者における歯の喪失傾向の継続

などがあげられるが、我々開業歯科医がなかなか気づかない現実として、歯や口の中に悩みがある人は6割（30歳以上）もいるのに現実には歯科受診率は低下傾向にある、ということ

指摘しなければならない。これは我々が考える患者さんの悩みと患者さん自身のそれとにギャップが有る可能性が大であることを示すものである。

歯科医師会の公衆衛生活動の効果はある程度認められるものがあるが、NHKの行天良雄さんの「国民は既に、自分たちの悩みを歯科医師は理解してくれない、と思っている。毎日NHKに送られてくる投書はがきの意見を読めば明らかである」という発言には反省せざるをえない。

8020運動や学校歯科検診にCOの概念を導入してきたが、肝心の管理をどうするのが確立されていない。文部省（検診）と厚生省（治療と管理）のリンクが成されていないからである。今後は学校歯科検診で咬合を重視した流れになるが、我々はどう対応するかを明確にしておかねばならない。



最後に我々の明るい将来の為に提言がなされた。今後の歯科全体の方針としては、歯科医療の価値観を変えなければいけない。

今までの歯科医療は、歯が喪失する方向

削る

詰める

抜く

入れ歯

今後の歯科医療は、歯の維持される方向

予防

咬合の育成

咬合の維持

8020運動の達成

技術料の変化の方向

（学術 清村正弥）

スタッフレベルアップ講演会

「院内感染予防対策」&「医療苦情をなくすには」

9月16日（木）午後7時30分より、県歯会館3階ホールにおいて約60名の参加者を得て開催されました。

まず、関剛一会長の「最近の患者ニーズもシビアになり、インフォームドコンセントをよく理解して患者に接して欲しい」という挨拶の後、講演が始まった。

今回の講演は2部構成になっており、第1部は医療管理委員会の鳥取孝治先生による「院内感染予防対策」、第2部は県歯医事処理担当理事の前野正春先生による「医療苦情をなくすには」というテーマで行われた。

第1部「院内感染予防対策」



院内感染予防対策の講演をする
鳥取孝治医療管理委員

今回の講演内容は、ドクター向けではなくスタッフへの説明ということで、詳しい消毒滅菌法等についての解説ではなく、医院スタッフの感染予防に対する基本的な心構えについて、わかりやすく説明された。

以下主な内容は

- 白衣の意義…患者とスタッフ間の感染を遮断するものである。白衣のまま院外に出て買物などに行かない。
- 清潔感のある院内作りを心がける。患者へのアピール…各々のスタッフの役割を自覚をもって対処する。
- 肝炎などの患者への対処法…グローブ・メガネ等の使用、針刺事故の注意。
- 使用器具が体のどこに触るかを考慮する。
- 自分がどうされたら満足するか、患者の身になって考え行動する。

第2部「医療苦情をなくすには」



医療苦情をなくすにはについて
講演する前野正春県歯医事処理
担当理事

医療苦情という堅苦しい問題についての講演であったが、スライドや多くの事例を使い理解しやすい説明が行われた。

以下主な内容は

医療事故は基本的にはあってはならないことであるが、医療過誤の問題は別にして、予測しない事態が起きた

場合、それが相談から苦情にならないように注意すべきである。この苦情になる過程には、患者の心に何らかの不満が働いているわけで、よく言われるインフォームドコンセント（医療側の十分な説明と患者の十分な理解と同意）が必要である。しかし、医療事故の発生に伴って人間関係のもつれが生じた場合は、誠意をもって早期解決に努めるのが重要である。

また、最近の医療苦情・トラブル・医事紛争の増加の原因として

- 医療技術の発展と危険の増大
- 患者の権利意識の高揚
- 医師側の意識の問題（医は算術）

等考えられるが、統計によると平成6～8年の事故・苦情の相談は約400件にのぼるということです。その内分けは、治療内容・金銭問題・麻酔・スタッフの業務範囲などが上位であった。

次に医療従事者の心得として、まず医は仁術であるということを認識することが大事であり、「患者が医療従事者を見る瞳は医療従事者が患者

を見る目よりもっと真剣である」ことを忘れてはならない。よって医療従事者は、患者を人格者として尊敬の念をもって接し、患者の秘密を絶対他人にもらさないという医道を理念に行動すべきである。また、退職後も診療所で知り得たことに対しても守秘義務はある。

また、患者に信頼されるための条件として人間として社会に認識されること、人に好感を与えるように努めることである。

もし医療紛争が起きた場合は、一人で解決しようとせず、関係者への発言は慎重に言葉を選び、医事処理委員会に速かに連絡をとることが重要である。

最後に、「医療従事者として誰からも好かれるスタッフになってもらいたい」という先生の言葉で講演会を終了した。



(医療管理 清川恵治)

委員会だより

学術委員会

パソコンセミナー無事終了

9月4日～9月19日までの毎週木・金曜日にベーシックパソコンセミナーが、9月30日・10月2日の2日に渡ってインターネットセミナーが、県立劇場前のパソコンスクールマリオネットにて行われました。今期の学術委員会のテーマ「情報化社会への対応」に沿って開催された第一段、パソコンセミナーには、毎回それぞれ約10名ほどの、情報化社会に遅れてなるものかと意欲満々の先生方の参加がありました。

スイッチの入れ方から“マウス”の説明まで、まったくの初心者にもわかりやすい内容で進められました。ワープロ、お絵かき、そして印刷と通常の講座よりも密度の濃い内容に、先生方も必死の形相でした。もちろん、年相応の苦労があったようですが…。特に、お絵かきソフトによる自由な時間は、先生方の性格がよくわかり、混乱しているのか(?)訳の分からない絵を描く先生や、きちんとした(?)絵を描く先

生など様々です。また、今話題のインターネットコースでは、開設してあるホームページに直接アクセスして、自分の興味のあるホームページを閲覧して、世界を飛び回った後、電子メールのやりとりまでと盛りだくさんの内容です。いずれの日も、2時間があっという間にすぎ、楽しいセミナーでした。

今回、新しい試みのパソコンセミナーでしたが、激しい時代の変化が進むなか歯科医師として、今後のパソコンの世界へ足がかりのよい第一歩になったセミナーでした。



(高松 尚史)

委員会だより

公衆衛生委員会

第15回 熊本市民健康フェスティバル

10月18日(土)・19日(日)の両日、熊本市総合体育館・青年会館において平成9年度「熊本市民健康フェスティバル」が行われました。

この催しは熊本市、熊本市保健協議会、熊本県医師会、熊本市医師会、熊本市保健医療専門団体連合会、熊本日日新聞社の主催で「これからの健康、21世紀に向かって!!」をテーマに本年度で15回を迎えました。



初日は午前9時30分より、オープニングセレモニーが行われました。市長挨拶、来賓祝辞の後、「健康宣言」がありました。又、多くの来賓によるテープカットが行われ、待ちかねた市民がどっと入場し広い会場に人々が溢れました。

医専連として熊本市歯科医師会、熊本県歯科衛生士会、熊本市歯科技工士会で歯科相談コーナーを設け市民の相談にあたりました。

歯科医師会は、歯科検診、相談、位相差顕微鏡による口腔内細菌検査、口腔内カメラによる説明や指導を行いました(入場者数2日間、303名)。衛生士会では、受付、ブラッシングレッスンコーナー、展示と紹介(パネル・ブラッシンググッズ、小冊子)又むし菌と歯肉予防のためにフッ素洗口やRDテストを行いました。更に在宅ケアコーナーでは種々の相談にのっておられました(入場者数266名)。歯科技工士会ではビデオ放映、歯科模型展示、パネル展示による説明、またミニ石膏(人形や動物)の作成を行いました(入場者数308名)。

中央ステージでは、健康体操として太極拳の

気功やお楽しみ抽選会、8020表彰、歯科演劇を熊本市保健協議会が行いました。

2日間の総入場者数は約15,000名でたいへん盛況で閉会に際し、万歳三唱を熊本市歯科医師会会長関剛一先生が行われました。

(原田教二・斉藤忠継)

学校歯科委員会

第39回 熊本県学校保健研究協議大会

10月24日(金)八代市厚生会館において、児童生徒の健康な身体とたくましい精神力を育成するために学校、家庭、地域社会の連携による学校保健安全のあり方や、その実践活動上の諸問題について研究協議をおこなった。「生涯を通じて豊かな心を持ち、たくましく生きる子供の育成を目指す学校保健」～学校・家庭・地域との連携による健康的なライフスタイルの確立をめざして～と題し、幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特殊教育諸学校の教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA会員、市町村教育委員会職員、その他学校保健関係者多数の参加があった。本会からは成松理事、津野田、村上、森永の4名が参加した。



開会式のあと、熊本県学校保健功労表彰受賞者として本会から富岡浩雄氏、才田雅英氏、中村矢一氏、野田和生氏、山隅龍祥氏の5名の方々が熊本県教育委員会より表彰された。その後、東京家政学院大学学長河野重男先生より「生きる力」をはぐくむ学校健康教育～健康への自己教育力の育成～と題した特別講演があった。内容としては、これからの健康教育のありかたは子供ひとりひとりがWHOのいう「身体的、精神

委員会だより

的、社会的に完全に良好な状態」に限りなく、一歩ずつ近づいていこうとする自己改善・向上の努力を援助し励ますことにある、というものであった。

午後からは各班別に研究協議会が行われ歯科保健の班では生涯健康をめざす歯科保健活動の進め方をテーマに「歯や口腔を大切にできる態度や習慣を育てる保健教育・保健管理」、「自己管理能力を育てる歯科検診と健康相談の進め方」、「歯の健康教育を効果的に行う組織活動」の3点について協議した。その後「日常生活に浸透する歯の健康づくりをめざして」と題し長洲町立腹赤小学校養護教諭の高村裕美先生より、「地域保健活動を支援するための情報管理及び広域的連携システムの構築に関する研究」～母子歯科保健に関する保健所機能について～と題し熊本県八代保健所参事市野浩司先生よりそれぞれ研究発表があった。

その後活発な質疑応答があり盛況のうちに閉会した。

(森永陽一)

歯磨き巡回指導

高齢化社会を迎え、誰もが健康で快適な人生を送りたいと思われるでしょう。精神面や社会環境の充実は勿論ですが、健康な体を作るための食生活をささえる基となる歯の役割が、最近特に重要視されています。生涯にわたって健康を維持するために歯や歯周病のない長寿社会にふさわしい健康な口腔機能の維持を目指す「8020」運動の推進が言われていますが、中高年からスタートしても「8020」は達成できません。小学校からの歯の刷掃法を含む健康教育活動が、ますます重要なものとなっています。

熊本市歯科医師会は「歯及び口腔に関する保健指導」を行い、歯磨きの定着習慣化を図り、学童の歯の減少を目指し、よりよく咀嚼でき健康な体を作るために、毎年小学校での歯磨き巡回指導を行っています。

平成9年度は、10月28日から10月30日までの3日間、ライオン歯科衛生研究所から辻野・山川の二人の歯科衛生士をお招きし、熊本市教育委員会と共同で、口腔保健指導と歯磨き体操を右

記の日程で9校実施しました。

口腔保健指導は次のような内容でした。咀嚼・発音を助ける、顔の形を整えるといった「歯の役割」から話が始まり、歯牙の構造・虫歯の進行の説明とエナメル質だけの初期の虫歯は痛くなくても早く治療を受けること、現在は小学生でも3人に1人は歯肉炎という歯周病に罹患しているという話や、虫歯と歯周病の原因は歯の汚れと細菌であり、それを防ぐためには一日3回食べたなら磨く事、おやつは食べる時間と量を決めてだらだら食べない事、好き嫌いをしない事、歯科検診を定期的に受ける事といった講演でした。次に歯垢のつきやすい部位、歯ブラシのあて方の説明の後、模型を使いスクラブ法による刷掃指導があり、レコードに合わせて歯磨き体操を全員で行いました。



最後に全児童で「食べたなら歯磨きを忘れずに」、「好き嫌いせず良くかんで食べよう」を約束して終了しました。

時間 月日	午 前		午 後
10月 28日 (火曜)	泉ヶ丘小 全学年 500名 9:35～10:20	健軍東小 2年 150名 11:40～12:25	山ノ内小 1、2、3年 360名 2:00～2:45
10月 29日 (水曜)	出水南小 1、2、3年 404名 9:40～10:25	田迎南小 1、2、3年 300名 11:45～12:30	城南小 1、2、3年 182名 2:05～2:50
10月 30日 (木曜)	弓削小 全学年 283名 9:45～10:30	楡木小 1、2、4年 233名 11:45～12:30	託麻南小 2、3年 332名 2:05～2:50

(山口一彦)

委 員 会 紹 介

今回は医療管理委員会を紹介し以下の質問に答えて頂きました。

質問事項

- 1) 開業場所・支部
- 2) 家族構成
- 3) 最近感動したことや憤慨したこと
- 4) 委員会に所属しての感想
- 5) 趣味

医療管理委員会



担当理事 藤波好文



1) 熊本市東野1丁目9-8 東部4支部

2) 妻 直子(歯科医師)

長女 礼子(高3)

長男 孝仁(中3)

次男 心(小5)

3) 私は縄文文化は、日本の基層文化であり、かなり発展した文化に違いないと考えていたが、今年の夏、三内丸山遺跡(青森県、5,000年前から3,500年前まで長期にわたる)を見て私はその事を強く感じました。

4) 藤波理事を助け、支えていきたい。

委員会活動はもちろんですが、アフター委員会も大事にしていきたいと思います。



沢木孝明 委員長

5) 剣道 居合道

40の手習で始めた剣道にはまっています。

1) 熊本市八分字町3117 小島支部

2) 妻 祐子

長男 宏太郎(高1)

次男 祐文(中3)

三男 卓史(小6)

3) 金融関係や東証一部上場企業のトップの不祥事、マスコミの対応、政党の不甲斐無さ

4) 労働管理、経営等を勉強させていただき感謝しております。

5) ドライブ、ゴルフ



尾上 宏 副委員長

1) 熊本市龍田町上立田1199-3 北部2支部

2) 妻 志津子

長男 文英(中3)

長女 葉津子(小5)

3) 最近は感激したことより、憤慨することのほうが多いように思います。

これも世紀末の現象だからでしょう。

大企業の不祥事、政治不信、などからいじめ

問題までいろんな分野でいままでの陰の部分が暴露されて、信頼していたものに裏切られているようで、何を信頼していいのかわからない状態にあるのかな。21世紀に向けて日本は、世界は、どうなっていくのだろう、などと取り留めもない不安感を感じながら過ごしています。

4) 9月の改正以来、経営環境の好転は見られず先行き不透明な状況が続いている中、藤波理事のもと少しでも皆様の一助になればという気持ちで頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

5) ゴルフ、読書、最近油絵を少々描きはじめました。



田中弥興 委員

1) 熊本市鶴羽田町652の16 北部3支部

2) 妻 仁美

長男 新之助

次男 邪馬人

長女 予定(お腹の中)

秋田犬 ジロウ ハナ

子犬2匹 2匹死亡

3) 家族の秋田犬が子犬を出産したことで、2匹死んで自然のきびしさに感動した。世界が武器商人に支配されそうになっていること。中原日歯会長に憤慨した。

4) 色々な考え方や、知識、情報がある事。又



鳥取孝治 委員

自分の意見を間違っている、率直に話してみることができる場を作って下さった先輩方に感謝しています。他の会員の先生方も交代で接してみられるとよいと思います。

5) ウェイクボード、スキューバダイビング、オートバイ、木の子採集、仕事

1) 熊本市尾ノ上2-5-12 東部4支部

2) 父 正継 母 都

妻 良子

長男 祥吾(小6)

次男 亮平(小2)

3) サッカー、
ワールドカップ予選
日本チームの奮戦

4) 初めての委員会でもわかりませんが、先輩の先生達は会員の為

に良く頑張られていると思います。

5) スポーツ観戦



清川恵治 委員

1) 熊本市近見町1570-3 川尻支部

2) 妻 美砂

長男 崇史(2歳)

長女 歩実(0歳)

3) サッカーのワールドカップアジア予選(対イラン戦)の決勝ゴールが決まった時は感動のあまり目頭が熱くなりました。生中継を最後まで見たうえに、次

の日の診療も考えずに祝杯をあげた結果…。また、最近の犯罪の低年齢化に2児の父親として考えさせられるものがあります。

4) 仕事の内容を全く知らぬまま入りましたので、現在勉強中です。先輩方を見習い、早く戦力になれるように頑張ります。アフター委員会(飲み会)の時は一人前ですが…。

5) アウトドア、熱帯魚、釣り、他多数



宮本格尚 委員

最近のTMDに関する考え方の概論及び 咬合との関係

大川 智弘

はじめに

歯科臨床に携わる者としてTMDに特徴的な症状、又その診断、他の疾患との鑑別、病因論、治療について正しい十分な理解をしておくことは、①患者さんに正確な病状に対しての情報を伝える。②自分の医院での治療の可・不可の区別をつける。③広範囲の補綴治療における設計、治療方針の決定。以上の3項目にとって不可欠であると私は考えています。このレポートは、現在世界のTMDに関する研究者の方々の最新の考え方を中心にガイドラインをまとめたものです。自分の医院に、TMDの徴候又はTMDに似た徴候を訴えて来院した患者さんに対して、いかにわかりやすくインフォームドコンセントを行い自分はどこまでの管理（治療ではない）をやればいいのかを少しでも理解できればと思い、非常に簡単ではありますがエキスのみをまとめてみました。詳細な診査・診断・治療法等につきましては紙面上（かなり字数多くなるため）記述できませんので、先日発送されてきた日本歯科医師会の10月号のジャーナルなどを参照して下さい。

最近のTMDの考え方（TMD≠咬合）

顎関節症を発症させる原因として咬合の問題は古くから重要視され、我々歯科医は、顎関節症は咬合に起因する（歯科的）疾患であると考え、顎位や咬合接触を変化させることを治療のメインとして対処してきた。又長年にわたってTMD患者に対し多方面にわたる治療法を開発し臨床応用してきた各臨床家は、それぞれ自分の方法が有効であると主張し、みなが同じように自分のやり方が優れた治療法であると主張していたのである。しかしそれぞれの治療法は科学的データ及び証拠に基づいた治療（Evidence based care）というよりは、臨床家が各々自分の得意とする手法を選択したり、ときに著名臨

床家の推奨するものをそのまま行っているのが実状であった。確かにこれらの治療でよくなった患者さんも多かったが無効であった患者さんも多かった。このことはすべての顎関節症が咬合異常から生じるのではなく、咬合異常は顎関節症を発症させる一寄与因子であるということを示している。

現在世界のTMDのスペシャリスト達は、いわゆる顎関節症を関節ではなくその周囲の組織をも含めた“Orofacial Pain（口腔顔面痛）”という包括的な概念のなかでとらえるようになっている。このことはかつて顎関節症を意味した“TMJ disorders”という言葉からJointという単語が抜け落ちて、現在はTMDと表記されるようになってきていることに象徴されている。

TMD（Temporomandibular Disorders）とは、顎関節と咀嚼筋および関連諸組織の障害を示す集合的病名である。

日本においてはTMDと咬合の因果関係について未ださまざまな議論があるかのように伝えられているが、現実には欧米のTMDスペシャリストのあいだではすでにTMDの原因＝咬合ではないというコンセンサスが学会レベルで得られている。

TMDの症状（3大症状）

以下の3大症状を特徴としている。

- ①疼痛（咀嚼筋、耳前部、耳、頭、顔面、顎関節）
- ②機能障害（下顎の運動制限および運動の非対称）
- ③関節雑音（クリッキング、ポッピング、グレイティング、クレピタス）

TMDの病因（多因子的である）

TMDは多因子性の疾患であり、病因としては普遍的な原因はまだ科学的に証明されていない。今まで原因とされてきた要因はいくつかあるがただTMDとの関連があることだけが証明されてきただけである。発症パターンとしては、

動的なバランスを保っている咀嚼器官が何らかの要因によりバランスを崩し、さまざまな構成要素に機能障害、疼痛などを起こす可能性があることがいわれている。その要因としては、TMDの危険性を増大する素因、TMD発症を起こす初発因子、TMDの進行を強めたり治癒を阻害する永続因子の3因子が考えられており、具体的には、直接的な外傷、解剖学的異常、パラファンクション（歯ぎしりなどの悪癖）、全身の疾患との関連、抑うつ状態や精神障害などが前述の3因子のいずれかの原因になりうるので注意が必要である。

TMDの分類（3つに分けられる）

現在TMDは口腔顔面痛（Orofacial pain：以下OPと略します）の中の1つの疾患としてとらえられている。このOPは大きく13の項目に分類され、そのうちの1項目に、「頭蓋、頸、眼、耳、鼻、副鼻腔、歯、口、または他の顔面、頭蓋組織による頭痛、および顔面痛」という項目があり、さらにこの項目が8項目に細分化されていて、その8項目のうちの以下の3項目がTMDとしてとらえられている。

- ①下顎骨を含む頭蓋骨の異常・障害
- ②顎関節の障害
- ③咀嚼筋の障害

TMDの診査&診断（多因子性疾患のためいろいろな角度からの診査・診断が大事）

TMDの最良の診断法は、徹底した病歴聴取と症状診査をすることである。

既往歴、現病歴、現症などについての十分な問診及びTMDに関する簡単なスクリーニングテスト等を行うことは診査・診断において有効である。具体的な手順としては以下の順序で行っていく。

- ①スクリーニングテスト
- ②病歴聴取（主訴、現病歴、医科的病歴、歯科病歴、個人歴）
- 医科的病歴では特にリウマチ、外傷、投薬について注意する。
- 個人歴では、社会的、行動的、心理的な問題をよくチェックする。

を

以上の①&②においてTMDが疑われた場合以下の診査を行なっていく。

③身体的理学検査

- 頭頸部の一般診査
- 顎関節の評価
- 咀嚼筋・頸部筋の評価
- 神経血管系の評価
- 口腔内評価
- ④画像診断

○パントモ（顎頭の形の診査）～変形の程度～
○断層X線撮影（顎頭に対する円板の位置関係の診査）～特別な場合をのぞいて一般的には行わない～

○MRI（円板の状態の検査）～特別な場合をのぞいて一般的には行わない～

⑤追加補助的検査

○咬合器に付着された診断用模型上での診査
※急性の筋痛などの症状があるときは咬合器付着の精度を低下させるためこの診査は急性期症状消失後に行うのがもっとも確実である。

①～⑤の診査結果に基づいて診断を下し治療へと移行する。診断に関しては後述する参考文献の①の中の“診断的分類システム”や文献②の“診断的分類”を参照して下さい。詳細に分類診断してあります。

診断、評価する場合は一つの診断名を追求することにこだわらず懸念される診断をすべて挙げるのが大切である。

TMDの治療・管理（可逆的保存的療法からはじめる）

TMDの治療の目標は、他の整形外科的疾患あるいはリウマチ疾患の場合と類似している。

すなわち

- ①痛みの軽減
- ②有害な負荷の軽減
- ③機能の回復
- ④正常な日常生活の回復

の4つを治療のゴールとする。

TMDの徴候と症状は種々の筋骨格系の状態

と同様に変化しやすく長期にわたって重篤な影響を与えることなく緩解することが多い。したがって複雑な咬合治療や観血的療法など非可逆的な過激な治療法を避けることに格別の努力をはらう必要がある。最初に行なうべき具体的治療としては以下の通りである。

a) 患者教育と自己管理

○損傷筋や関節組織の安静をはかるため、過度の咀嚼、ガムかみ、大あくび、歌唱などの中止や、クレンチング、ブラキシングなどの習癖を自覚改善させる行動認識療法

○患者にTMDについての病気をよく理解させ、安心感と信頼感を持たせ、患者自身を治療に積極的に参加させて、個々の問題を管理させるセルフ・ケア。

b) 薬物療法

○除痛を目的として使用する場合が多い。

○パラファンクションなどによる不眠等の場合マイナートランキライザーを使用することもある。

c) スプリント療法

d) 理学療法 (リハビリテーション)

○筋・開口訓練

○マイオモニター

以上のようなa)～d)の可逆的治療法に関する最近の研究結果としてTMDの患者の大多数は習慣の改善、理学療法、スプリントなどの保存的療法で軽快することが示されている。また、これらの治療は長期に良好な結果をもたらすこともわかってきた。これらの経済効率のよい保存療法によって良好な結果が実証されている現在、ほとんどリスクがなく治療ができる可逆的療法を優先的に選択すべきであるという結論にいたる。

これらの治療の判定期間は3ヶ月を目安として行うが症状軽減が認められない場合には、口腔外科専門機関や内科・精神科医師とのチームアプローチの必要がある。

以上が現在のTMDに関する考え方の概論であるが、最後に現在、いったい咬合とTMDと

はどのような関係としてとらえられているかをまとめてみる。

①現段階では、いったんTMDがいろいろな他の因子が原因で発症すると、咬合はそれを悪化させる要因として2番目に重要であると考えられている。

②咬合の安定を与えることはTMDの症状の推移により影響をもたらす。従って現代咬合論に基づく咬合の診断治療能力が要求される。すなわち

○顎関節の荷重のコントロール

○歯・歯周組織の荷重のコントロール

○関連する筋の安定

を目的として

○顎位 (水平及び垂直)

○咬合様式 (ディスクルージョン etc)

○歯牙接触関係

のチェックを正確に行い、必要であれば治療を施す。

③TMDと咬合との関係が科学的に証明しがたいということは両者が無関係という証明とはならない。

④筋肉が患者の咬合関係に適応しているからといって咬合は関係ないとは言えない。適応能力があることがcause&effectの診断をむずかしくする。

参考文献

①Orofacial Pain (Guidelines for Assessment Diagnosis and Management)

by Jeffrey P. Okeson 1996

②Temporomandibular Disorders Guidelines for Classification, Assessment, and Management

by C. McNeill 1993

③咬合理論の実践

著：藤本順平

④現在の米国TMD治療の理解

The Quintessence Vol. 16 No8/1997-61～69

日本語文責：和嶋浩一

スタディーグループ紹介

「萌歯会」

世話人 松 永 久

平成7年2月、「勉強を志す若い歯科医師の会をつくりたい」とのことで、球磨郡の稲留裕士先生の呼びかけで勉強会が発足、集まった先生方はほとんどが卒後10年以内の先生方であり、およそ半数が勤務医でした。勉強会としてまず「方針」「運営方法」等を話し合いました。会の名は会員が若い先生方ばかりであるため、新芽が萌え出る、さらに患者さんに奉仕をする、との意味で「萌歯会」と名付けました。方針は「見立ての良い歯科医師育成」を主眼に、まず「診査・診断・処置方法の決定」を基本とし、例会を月1回開くこととしました。さらに最初から会員による身内のケースプレを行うのではなく、講師を招聘し講演を行っていただくことにより、今一度基本的な事柄について学んでいくこととしました。また、会員が若手ばかりであるため、会を正しい方向へ導いて頂けるようお忙しいことは承知の上、ご無理を言って中村社綱先生に顧問をお願いしました。中村先生には学問への取り組み方、歯科医師としての姿勢など手厚く、また厳しくご指導いただいています。



運営は6名の世話人が中心となり、予定組み、講師以来、会計等を行わせていただいています。会費等については入会金はなく、年会費を1万円、例会出席費を1回3千円とし、会員への負担を極力抑えています。後に記述する歴々の講師の先生方をお招きして貴重な講演を伺えることを考えれば、けっして高い会費ではないと思われます。また年度ごとに会員の籍を更新、入退会は本人の意思により自由としました。



今年度は約30名の会員が集い勉強に励んでいます。例会の会場は内田サンエス歯科商会さんをお願いしU Sホールをお借りしています。

萌歯会は平成7年3月より本格的な活動を開始、第1回及び2回は前九州大学歯科部口腔外科学教授田代英雄先生にお願いし「全身疾患と歯科治療」「アナムネーゼのとり方」をご講演頂きました。以下九州歯科大学保存学教授寺下正道先生（歯冠修復）、鹿児島大学保存学教授末田武先生（歯周病）、東北大学歯学部高齢者歯科学教授渡辺誠先生（咬合及び顎関節）など各大学の教授、助教授、講師の先生方をお願いいたしました。さらに開業医の先生方では中村先生をはじめ北九州市開業の下川公一先生（歯内療法）、東京都開業の宮地建夫先生（欠損歯列）、同じく東京都開業の岩田健男先生（補綴）、また熊本県社保担当理事の寺脇博先生に保険制度についてなど、県内外から多岐にわたる様々な事柄を多数ご講演頂いています。それぞれの講師の先生方はその分野では一流の方々ばかりであり、私どもの会でご講演いただき感謝しております。

発足3年目の今年、少しづつ会員によるケースプレを取り入れながらお一層の会のレベルアップを図っています。萌歯会はこのような会です。特に入会審査や条件があるわけではありません。わたしも一度参加してみようかと興味のある先生はどうぞお越しになって下さい。

移動理事会

(於：天草郡御所浦)



11月8日9日に4年ぶりの移動理事会が、天草郡御所浦で行われました。当日は数人ずつのグループに分かれ午後5時に龍ヶ岳の港に集合ということでしたが、我々のグループ(3人)は30分も前に着いてしまいました。やっぱり一番早かったと思いながら皆が到着するのを待っていました。しかしいくら待っても誰も現れません。おかしいということで途中通り過ぎたフェリー発着場のある港へ引き返したところ残り全員集合済み。結局我々が一番遅い到着となりました。そもそも港の名前は聞いていないし教えてもくれなかったので仕方ないかと思いつつも、「行けば港はすぐに分かる」という言葉を信じたのがいけなかった。全員揃ったところでこの港から海上タクシーで御所浦の横浦島へ出港しました。所用時間はなんと約5分。乗っている時間よりも人の乗り降り、荷物の積み降ろしの方が時間がかかったような気がしました。

旅館に着いてからは早速理事会。予定の時間を相当オーバーしましたが無事終了し、その後懇親会へと移りました。市内では減多に戴けないような料理に舌鼓を打ちながら酒を酌み交しました。酒がはいると一人一曲は必ず歌えというカラオケとなり、異常な盛り上がりで旅館の方々には相当な迷惑をかけたのではと思っています。宴会が終わりやっと静かになったと思いきや、今度は麻雀組が4時過ぎまで、いびき組

は朝まで熱唱が続き、「ほとんど寝られなかった」とはやく方もおられた。

9日は釣り組、ゴルフ組に分かれ、釣り組第一陣は朝と昼の弁当を持って6時頃出発。私は第二陣雑魚釣り組で、音頭をとっていた先生の気分次第で8時30分出発。その先生前夜飲み過ぎたのか、はたまた麻雀、いびきのせいだったのか一匹釣ったら後は船上でおねんね。やはり夜明けぐらいから釣らなきや駄目です。雑魚釣り組には今回の宿泊等をお世話して下さいった竹下先生も同乗されましたが、あまりの釣果に気の毒がられ実家から釣り組全員に2キロ程の鯛を土産に持たせてくれました。因に第一陣の釣果は結構ありました。一方ゴルフ組はスタートが遅かったせいか我々が出発するときはまだ旅館におられました。釣り組は全員「御所浦まで来て、市内近くに戻ってゴルフするとは」と感心していました。

一泊二日でしたが小春日和に恵まれ楽しい時を過ごせました。

(蔵田幸一)

ゴルフ組は東南カントリークラブを11時18分にスタートし、睡眠不足もなんのその、みんな元気にハッスルプレーで頑張りましたが、肝心なところでミスを連発して愚痴をこぼす人、ハンディーをやりすぎたと嘆く人ありで、何時もながらの和気霽々のゴルフコンペでありました。

結果は次の通りです。

	out	in	Total	H.D	NET
小田和人	42	41	83	12.0	71
稲葉逸郎	39	39	78	4.8	73.2
本田 亘	52	46	98	21.6	76.4
与儀実彦	48	44	92	15.6	76.4
古賀 明	42	42	84	7.2	76.8
有吉 洋	46	42	88	8.4	79.6

(小田和人)

●私の趣味●

「最初で最後の一本勝負！」

伊東 泰蔵



私は小学校4年生から兄と一緒に剣道を習い始めました。これは自分から進んでではなく父の強いすすめでやらされた記憶しています。最初は稽古に行くのがイヤでしかたなく、いかにサボるかばかり考えていました。

剣道の道具は今のようには新品ではなく、中古でしみのついた一式で恥ずかしかった思い出があります。

道場は、黒髪小学校の裏にあった「興風館」といいまして、館主は古荘先生で非常に厳しく、稽古の他には私たちのような子どもにも今後の生き方について語っておられました。稽古の始めと終りの正座の時には、先生の若い時代の話を聞かされては…、足がしびれて立てなかったこともありました。時には、寒稽古で寒くて着替えるのをためらっていると、カミナリが飛んできて無理やり稽古をやったこともありましたが、稽古が終ると暖かいおしるこの差し入れがあったりして、休まずによかったと感激もしました。

鉄人のような先生にも、大の苦手がありました。それは「歯の治療」でした。父が先生の治療を行っているのを見に行ったら、苦痛にみちた顔で汗をかきながらの姿を見て、先生の弱点を知りました。

そんなある日、先生にいつものように稽古をつけていただいている時のことです。ここから私が一番書きたいところなのです。今鳥肌が立っています。最初にテーマとして揚げたように“鉄人の先生”にこの私が勝ったのです。稽古であれ、先生から思い出となる一生に一度の一本！で、今までの人生の中であれが本当の一本ありだったと思える“メン”をとったのです。しかし回りは稽古をやっていて証人がいないのが残念でなりません。

そのところを詳しく解説したいと思います。先生との剣道は、稽古にならないぐらい身体に触らせてくれないほど竹刀の先が動かないのです。じっとしていると今度は鈍い“ツキ”で、かかってこい！とゲキが飛んできます。あまりの痛さに泣きながらやっていると、慰めの言葉でなく、倍ぐらいの厳しいゲキが飛んで、くそ今度こそやるぞと思いながら作戦を練りました。



著者：下段右から2人目

いつもの稽古の時に、ちょっと休もうと先生と“つばぜり”の形をとりました。息を弾ませながら疲れていると見せかけて、自分の眼は先生のコテ（手）を見つめていました。この時、先生はこのガキはコテを打ってくると思った瞬間、さあっと下がったところ、先生は竹刀でカバーしようとしたところをこの私は、振りかぶってメン（頭）を打ったのです。手応えありの文句なしの一本！でした。

先生はニコニコしながら、これはすばらしい一本だとほめてくれました。あの鉄人の先生から奪った一本、忘れられないこの勝負は何かにつけて思い出シーンです。

感情が高ぶってうまく表現できませんでした。稽古の経験のある先生には分かっていたかと思いますが、稽古ではいいが、稽古ではそんな色気を出

しかし、最近是这样思う時もあります。すばらしい一本だったかもしれないが、小学6年で人をだましてまで勝負するのが本当だろうか…。あるいは試合ではいいが、稽古ではそんな色気を出

したらいかんという意見もあるでしょう。

この経験から一瞬の眼の動きがいかに大事かを知りましたが、その結果の程は解りません。現実には人には教えられない、伝えられない勝負の世界かもしれません。

剣道の稽古を通じて生きていく心構えを教え

て頂いた古荘先生は、昭和48年大洋デパートの火災で亡くなられて24年になります。しかし自分の心には今もはっきりと思い出の一本として忘れることはないでしょう。先生今度こそ“わが人生に一本あり”と言えるように精進して参りたいと思います。(合掌)

『大切なもの』この年齢になってわかった事

丸山 毅



突然に頂いた原稿依頼にいささか戸惑い、ましてやいくばくかの先生方の目に止まるという事で思案するも良材が見つからずとりとめの無い文章になりそうであるが、最近になってやっとわかつ

てきた“大切なもの”について記してみる事とした。

縁あってこの熊本の地で開業させて頂く事となり2年半が経とうとしている。北九州で出生し、福岡で育ち、鹿児島に学び再び福岡で歯科医となった私が初めてこの熊本の地に足を踏み入れたのがもう8年近い前の事となる。一人っ子で育った私は幼い頃より“独立心”が強かったように思う。私ひとりに集中する親の愛情は私にとってむしろ重荷であり、その有難みも知らず何不自由なく自分の好き勝手に生きてきてしまった。親は子がいくつになっても親でありたい。子を可愛がる事に年齢など関係はないのである。

しかし子は年齢を経るにつれ自分の一人前を強く主張し親の優しい気持ちは通じていないのが実情である(少なくとも当時のおろかな私には全くわかっていなかった)。

大学卒業後、大学院へと進学した私がこれもまた私のわがままで急きょ中退しその後は本当に自分の思うままの勝手な人生であった。

まさしく自分一人で生きていけるという馬鹿げた錯覚に陥っていたのである。他人様に迷惑

をお掛けすることこそなかったが両親に対してはその意に反する行動ばかりをとっていた。一時期は実家にも寄り付かず、両親や親族からも遠ざかっていた時もあった。

しかし、時は流れ私も3人の子供に恵まれ、この子らが架け橋となってくれ再び親との交流が持てるようになった。自分で子供を持つ身になってやっと目覚めた気がする。自分が今日、こうやって生きていけるのは私がいかなる場合であっても変わる事のない愛情を注いでくれた親がいたからであるということ。

そしてこの年齢になってやっとわかった『大切なもの』とは私の場合は物質ではなく形のない“心”である。私をここまでにしてくれた両親はもとより、歯科医として生きていく上で色々な刺激を与えてくれた諸先生、患者さん、そして自分の家族に対する本心からの感謝の“心”である。

今では、時間を見付けては帰省し、老いた父と釣りに行き、母の懐かしい手料理に舌鼓を打っている。

最近は年をとり少し弱々しくなった両親を見るとあわれを感じ同時に自分のおろかさを深く反省させられている。もっと頻繁に帰省しよう、元気なうちにもっと話をしておこう、今はそんな気持ちである。

そして最後に、いつも照れ臭くて言えないこの言葉をこの誌面をお借りして父と母に届けたいと思う。

「あなた方の子として生まれ本当に良かった。生んでいただきありがとうございます」と。

思い出の旅

思い立ったら吉日

牛島 隆



基本的に粋にはまった旅というのはあまり好きではない。出かけたくなったらふらっと旅立つ。そういう風な旅が好きだ。好きだというより現実をみつめると

日頃の忙しさからそんな旅に憧れると言った方が今の自分には合っているかもしれない。勤務医をやめ、開業にたどり着くまで約半年の空白があった。その間はもちろん、開業準備あり、結婚あり、熊本への引越しありとやることは山のようにあって、とてもプータローとは思えぬ忙しさであった。

そんな中、7月のある日、ふと沖縄にいきたくなった。以前にも何度か沖縄へは出掛けたが、夏だというのに青っ白い体を焼きたかったのと、チャンプルが食べたかったのと、沖縄の先輩の医院でも見学に行こうと思ったのである。結婚したばかりの妻を「もうすぐ実家にもしよっちゅう帰れなくなるから」と言い残し、私は沖縄へ旅だった。



幸い大学のともだちが何人もいて、快く？泊めてくれたので、宿泊代と食費はさほどかからなかったから貧乏な私は大変助かった。朝、適当に起きてA&Wでハンバーガーとオニオンリングを食して、ビーチに行って若い娘の水着姿

を肴にオリオンビールを飲みながら適当に焼いて、気が向いたら海に潜って好きな熱帯魚を見る（但し素潜り）。

ビーチもあまり観光客の多くない所を選んで船や車で出掛けた。結構リゾートビーチは人間で海が濁っていたりするので、離島の方が便利は悪いが、人が少なくって海はきれいだと思う。

夜は夜で友達を無理に誘って泡盛で宴会をし、地のものを食べる。ただ、すし屋でアボガドのにぎりを出されたがあれはあまり旨くない。又、真っ暗なひめゆりの塔に不謹慎にも「何かでやしないか」と、見学



に行ったり、人里離れた山奥にハブを恐れながらヤンバルクイナを探しに行ったり、沖縄本島の最北端にある辺戸岬まで車で走り（那覇から3時間ほどかかる）、ヨロン島の薄ら見える明かりを見に行ったり、誘惑的な街を覗いてみたり…（あぶないところがあるんです。知ってますか？向こうのラブホテル街のすごいこと、嘉手納基地の裏の方であって、遊園地かと思うくらいすごいネオンをつけ、異次元を思わせる凄さ）コザにあるチャーリータコスのタコスも料金表がドル表示と日本語表示があったりするだけで、ただでさえ旨いタコスがさらに魅力を倍增するのである。夕暮れ時、国道を車で走っていると、米軍の戦闘機が轟音とともに頭をかすめる。う



ちなーんちゅ（沖縄の人の意味）にとって迷惑なものでも内地の人間にとっては「勝手なものだ…」と思いつつも映画の世界にいるような気分になるのである。

観光客を乗せた大型バスが横を通るとまるで

地元の人間のような気分で少し優位にたっているような感覚を覚える。

沖縄はなんとなく私にとって非日常的な空気が漂っていて、そこにいると時間が止まって感じる。止まって感じていたせいで沖縄についてから2週間にもなっていた。松崎しげるにも負けないくらい黒くなった。体中の皮が2・3回は剥けたのだろうか。「あ、やることいっぱいあったっけ」そう考えた時、沖縄旅行は終わった。

ゴルフのできない私は、たまに予定のない日曜日の朝、ふらっと何処かへ行きたくなって、突然妻に「さ、出掛けようか」というと、「どこに？」と聞いてくるので、「決めてない…」と答えていたのが、このところ行き先も聞かなくなった。

ちょっと いっぷく



何事も、その道に徹するという事は、すばらしい事です。時折「そこまでして…」と頭が下がる思いがします。

某委員会の理事の話。委員会中にほりほり腕を搔きむしりながら仕事をされておりました。見るとじんましんがいっぱい出ております。「かゆそーだな、そんな思いまでして委員会にでてくるなんて…」いたく同情しながら、何が原因ですか？「そるがたい、フツーのパチンコしよった時は、こぎゃんこつなかったばってん、パチスロするごつなってからこぎゃんなったとたい」。

そーです、彼は金属アレルギーだったのであります。そこまでして…委員会一同、頭の下がる思いをしたのは昨日のことです。

その日の委員会では、どうやってK理事のじんましんをいかに治すかが検討されました。

その結果、診療用のグローブをはめてパチスロをやればよいのではないかという結論に達し、K理事は現在真剣にこれを実行することを考慮中であります。

新人です!よろしくお願ひします

新 入 会 員 紹 介



氏 名 金 本 和 久
住 所
(自 宅) 熊本市川尻 6 丁目 11-46 電話 096-357-5717
(診療所) 熊本市白藤町 574-12 電話 096-358-7108
生年月日 昭和 36 年 12 月 22 日
趣 味 競馬
好きな言葉 凡事徹底
経 歴 昭和 62 年 3 月 九州大学歯学部卒業
昭和 62 年 4 月 産業医科大学歯科口腔外科入局
平成 6 年 3 月 退職後、
4 月より福岡県宮田町の橋本歯科医院勤務
平成 9 年 6 月 退職後、7 月 16 日より熊本市で開業
家 族 妻 (江美) 長男 (龍弥)



氏 名 小 野 秀 樹
住 所
(自 宅) 熊本市御嶺 4 丁目 3-15 101 電話 096-389-2839
(診療所) 熊本市御嶺 4 丁目 3-16 電話 096-389-8885
生年月日 昭和 37 年 12 月 18 日
趣 味 テニス、サーフィン、スノーボード
好きな言葉 不言実行、一網打尽
経 歴 平成 2 年 鹿児島大学卒業
平成 2 年 鹿児島大学付属病院第二補綴科入局
平成 7 年 鹿児島大学付属病院第二補綴科辞職
平成 7 年 ありよし歯科医院勤務 (熊本)
平成 9 年 現在地に開院
家 族 妻 (文子) 長男 (草太) 長女 (日向子)



スポーツの広場



トーナメントゴルフ会

平成9年7月21日 14名

	O	I	G	H	N
優勝 大森秀則	45	42	87	19	68
2位 井尾治雄	44	45	89	17	72
3位 宇都宮啓一	51	49	100	28	72
4位 宮崎幸一	44	48	92	19	73
5位 谷川貞男	41	42	83	10	73
B B 寺島美史	56	54	110	30	80

平成9年8月3日 13名

	O	I	G	H	N
優勝 谷川貞男	36	43	79	10	69
2位 古賀 明	42	44	86	12	74
3位 河野敬明	47	43	90	15	75
4位 本田治夫	46	44	90	14	76
5位 内田 隆	47	40	87	11	76
B B 宮崎幸一	52	52	104	19	85

平成9年9月14日 12名

	O	I	G	H	N
優勝 井尾治雄	41	42	83	17	66
2位 藤波 剛	47	47	94	20	74
3位 赤城公德	55	46	101	27	74
4位 森 一	42	47	89	14	75
5位 古賀 明	46	45	91	12	79
B B 合沢康生	49	48	97	13	84

熊本デンタル会

平成9年8月16日 空港カントリー 18名

	O	I	G	H	N
優勝 田中弥興	43	56	99	30	69
2位 渡辺 博	40	39	79	10	69
3位 大嶋健一	40	41	81	10	71
4位 中川純一	43	46	89	16	73
5位 工藤孝昭	50	53	103	30	73

平成9年9月21日 空港カントリー 24名

	O	I	G	H	N
優勝 田中弥興	49	46	95	23	72
2位 甲斐利博	40	38	78	5	73
3位 千場敏昭	43	41	84	10	74
4位 川崎俊明	41	45	86	10	76
5位 渡辺 博	42	41	83	7	76

平成9年10月19日 空港カントリー 15名

	O	I	G	H	N
優勝 千場敏昭	41	43	84	10	74
2位 松本光示	42	38	80	6	74
3位 渡辺 博	41	43	84	7	77
4位 中島義和	40	41	81	4	77
5位 田中弥興	45	51	96	18	78

空港デンタル会

平成9年11月8日 ダブルベリア方式 15名

	O	I	G	H	N
優勝 千場敏昭	41	49	90	19.2	70.8
2位 元島博信	45	46	91	19.2	71.8
3位 甲斐利博	39	39	78	4.8	73.2
4位 川崎俊明	47	42	89	15.6	73.4
5位 中島義和	38	38	76	2.4	73.6
B B 松本光示	42	45	87	6.0	81.0

会 務 報 告

理 事 会

月 日	協 議 題
9月17日	第109回理事会（会務、庶務、委員会報告、協議）
10月21日	第110回 〃 （ 〃 ）
11月 8日	第111回 〃 （ 〃 ）

医 療 管 理 委 員 会

月 日	協 議 題
9月 4日	三歯会の反省 スタッフレベルアップ講習会打合わせ 労務管理の質問事項の収集協力
10月 2日	講演会打合わせ
10月22日	患者負担増額に対するポスター作成について 救急蘇生法講習会打合わせ

学 校 歯 科 委 員 会

月 日	協 議 題
8月22日	熊本市エイズ対策について
9月26日	歯ブラシ指導の段取りと担当学校の決定

厚 生 委 員 会

月 日	協 議 題
8月27日	入院入所者報告書について 新年会について
9月29日	入院入所者についての統計（H9.1～7月分）
10月27日	入院入所者についての統計（H9.8～10月分）

社 保 委 員 会

月 日	協 議 題
9月24日	旧レセプトの取り繕い方法について 母子家庭医療費助成の計算方法について
10月22日	訪問診療カルテ記載の手引作製の打ち合わせ
11月14日	11/17～11/21の市役所での歯科相談について

学 術 委 員 会

月 日	協 議 題
9月29日	選挙について インターネットコースについて 救急蘇生法講習会について 学術講習会について パソコンセミナー報告 3月講演会具体案 学術研修会
10月14日	救急蘇生法講習会打ち合わせ 学術講演会打ち合わせ 2月28日(土)学術講演会(第2回) 4月学術研修会の件
11月 4日	来年度事業計画及び予算について 救急蘇生法講習会打ち合わせ 11月15日学術講演会打ち合わせ 選挙協力について 来年度予算について パソコンセミナーについて 第1回学術研修会打ち合わせ

公 衆 衛 生 委 員 会

月 日	協 議 題
8月28日	市立幼稚園フッ素塗布について 健康フェスティバルについて
9月18日	フッ素塗布(7幼稚園)の反省会 シンポジウム
10月17日	10月18・19日健康フェスティバル FM(シティーFM)への出演 健康フェスティバルについて

広 報 委 員 会

月 日	協 議 題
9月12日	中岳98号 第1校正
9月22日	〃 第2校正 かわら版10月号編集
10月24日	〃 11月号 〃 中岳99号打ち合わせ、目次作成
11月10日	中岳99号原稿チェック
11月19日	中岳99号編集会議

～ 協同組合だより ～

協同組合各種商品ご案内

商 品 名	特 長	組合員特別価格
電解水(抗酸化水)生成器	電気分解した還元水(抗酸化水)が、病気の原因である活性酸素を除去、健康長寿を実現します。 健康と長寿は私達人間の共通の願いであり、夢でもあります。 ご家族の健康増進に!!	128,000 円 セラビー 700 型 208,000 円 イオンガーデン II C I -2000 型
キノコのパワー・免疫強化 アガリクス茸(100g)	今、最も注目されているのが、このアガリクス・ブラゼイ(学名)というキノコ。ガン細胞に対する抗腫瘍治療力(学名)に比べて最高値を示し、また成人病の予防改善にも効果があることが実証されています。	18,000 円 (消費税・送料別)
待合室を演出 ハートフル・バード	待合室を小鳥(ウグイス)の鳴き声で演出でき、患者さんとのコミュニケーションに最適商品です。 小鳥のさえずりに心がかよう自然とのふれあい	ウグイス・オオルリ・アオジ・ルリビタキ・アカショウビン・ヤイロチョウ・カワセミ 9,800 円 (消費税・送料別)
四つの水を生成 アイテック・ミニAM-2D	◎強酸性水(強力な抗菌・除菌作用あり医療用に最適) ◎強アルカリ水(園芸野菜や観葉植物等の成長促進) ◎弱酸性水(お肌を引きしめるアストリンゼンで美容に最適) ◎弱アルカリ水(ヘルシーウォーター)	105,000 円 (消費税・送料別)
不思議なパイプ (2本入)	・ヤニで歯が汚れない ・喉にやさしく痰がきれいになる ・タバコの臭いが消えて寝られる ・味を変えず 200 本喫煙可能 ・中毒症状が緩和され禁煙も楽々	500 円 (送料別)
驚異の浄水器 (アクアドクターUF)	クラレが開発した画期的な中空糸膜を使用。10万分の1ミリの雑菌までシャットアウトする驚異の浄水器で完全除菌性能 No.1。牛乳をも透明な水に変えてしまう画期的商品です。	19,800 円 (消費税・送料別)
電子式空気・清浄機 「クリアベール」	ファンレス空気清浄機で、0.001 ミクロンまでの超微粒子を電子の力で吸着・脱臭し、バクテリアウィルス・カビの胞子・ダニの死骸やタバコの煙・花粉・ペットの細毛などをキャッチするなど優れた効果を発揮。	25,250 円 (14 畳まで) 36,750 円 (20 畳まで) 54,000 円 (30 畳まで) (消費税・送料別)
奥様方の夢実現 スリムローション 「リラックス」	「リラックス」は、塗って約1時間リラックスしていただくだけで、1～5 cm サイズダウンできるシンプルケア商品です。	10,500 円 (消費税・送料別)
魔法のふきん クリンネル(3枚入)	○食器・フライパン等台所用用品の汚れ落とし ○電器製品・窓ガラス等の汚れ落とし ○家具類・自動車の室内等の掃除に……最適です。	1,000 円 (送料別)

商品の御用命・問い合わせは協同組合事務局 (TEL 096-343-6400) まで

技術と信頼がテーマです



DENTAL LABORATORY AISHI

株式 愛 歯
会社

〒860 熊本市大塚4丁目2番42号
Phone. 096-343-5839 Fax. 096-343-5105

YOSHIDA

ヨシダの レーザー。

レーザー治療を、より身近にする一台です。

従来のレーザー装置を大きく下回る低価格を実現した、
ヨシダの歯科用炭酸ガスレーザー手術装置[オペレーター03S]。
操作性や安全性の高さはもちろん、定期交換が不要なマニピュレーターを採用することで、
低ランニングコストも実現しました。

標準医院価格 ¥4,780,000(消費税抜き)



効果・効能 ● 生体組織の切開、止血、凝固及び蒸散仕様
● レーザーの種類/炭酸ガスレーザー ● レーザー発振波長/
10.6 μm ● レーザー出力/0.5~5W(0.1Wステップ) ● タイマー動作/
0.1~1.0秒(0.1秒ステップ)、リビートパルス、連続 ● 焦点径/φ0.2mm ● 冷
却方式/水冷循環式 ● 定格電源/AC100V、50/60Hz、260VA ● 外形寸法/コンソール
部(床面積)378×318mm(高さ)864mm、装置全体(高さ)1,150mm ● 重量/40kg安全機構
● 照射表示/表示ランプ(緑)及び警告ブザー ● 装置始動/キースイッチ ● 本体カバー/インターロ
ックスイッチ付 ● レーザー照射/フットコントロール2段スイッチ式 ● 異常表示/冷却水異常、シャッター
異常標準セット内容 ● 本体(アシストエア付)/マニピュレーター部<歯科用(60°)>ハンドピース1本付>/先端
チップ5本/フットスイッチ/保護メガネ3個 ● 承認番号(05B)第0677号 □ 臨床応用ビデオをご用意しています。

Opelaser 03S

歯科用炭酸ガスレーザー手術装置
[オペレーター03S]



オペレーター03Sに関するお問い合わせは ● 発売元 株式会社ヨシダ 機械事業部レーザー課 TEL.03-3845-2941(代)
製造元 株式会社吉田製作所 レーザー機器販売部

S.J.C.D. 熊本研修会のご案内

S.J.C.D (Society of Japan Clinical Dentistry) は東京と大阪を中心に多くの会員を持つ日本最大級のスタディグループです。東京や大阪の1年間の歯周補綴コースを中心に USC アメリカ研修旅行や定期的なシンポジウムなどの多彩な活動を行っています。

私たちS.J.C.D.in熊本ではこのような活動を少しでも地元熊本に幅広くご紹介するために、現在S.J.C.D. 熊本ショートコースと題して年4回の実習コースやさまざまなセミナーや講演会を企画実施しております。今後も下記研修会をはじめとし、多くの企画を実施してまいります。

ぜひご注目いただきたく存じます。

S.J.C.D. 熊本 今後の研修会計画

1) 第2回 S.J.C.D. 熊本 ショートコース 1998

来年も今年同様8日間の歯周補綴ショートコースを開催予定です。
スケジュールは1998年7月～10月の予定です。

- ①第1回「咬合と咬合器」 講師：山崎長郎先生（原宿デンタルオフィス）2日間
- ②第2回「歯周外科」 講師：茂野啓示先生（北山茂野歯科医院）4日間
- ③第3回「支台歯形成」 講師：西川義昌先生（甕島中央診療所）2日間

費用は全コース（計4日間）で315,000円（消費税込み、器材費別）にて予定。
場所：平和会 添島歯科クリニック研修室（熊本市京塚本町7-7）

2) 第5回 総義歯実習研修コース 1998

来年も今年同様6日間の総義歯実習コース（歯科医師向）を開催予定です。
スケジュールは1998年3月～5月の予定です。費用は315,000円（消費税込み）にて予定。
場所：平和会 添島歯科クリニック研修室（熊本市京塚本町7-7）

3) その他

その他歯科衛生士向け及び歯科技工士向けの研修会を現在鋭意企画中です。
また歯科医院院長向けの経営研修会も企画中です。
ぜひご期待下さい。

なお、上記の予定には変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。

お問合せとお申込先：

有限会社アワズデンタル

- 熊本市健軍本町5-22 Tel 096-368-8130 Fax 096-368-8198
- 八代市田中西町18-2 Tel 0965-33-7492 Fax 0965-33-9169
- 大牟田市通町1丁目5-6 Tel 0944-54-2531 Fax 0944-54-2532

編 集 後 記

今年は、大手証券会社、保険会社があいついで倒産し、景気の悪い年でした。医療業界も例外ではありません。来年も明るい材料は見あたらず、見通しは暗いままの様です。丑年だからという訳ではないでしょうが、非常にあゆみののろい、ともすれば、止まりがちな一年でした。

さて、来年の干支は寅です。トラといえば、黄色。風水学では黄色は金運を上昇させる色だそうです。ここはひとつ、トラの色にあやかり、気分を一新して、良い年でありますように。

(M. Y)

熊本市歯科医師会会誌

第 99 号

発行日 平成 9 年 12 月 25 日発行

発行所 社団法人熊本市歯科医師会

熊本市坪井 2 丁目 3 番 6 号

TEL (343) 6669

FAX (344) 9778

発 行
責任者 関 剛 一

印刷所 株式会社 ハタノ

熊本市上熊本 2 丁目 1-30

TEL 096-356-6433 FAX 096-311-1388